八代集抄

新古今六〜賀

四十四

特別
イ 4
3163
104(44)

貴
14
3163
104(4)

紅葉山文庫

たきこのうへす秋乃別
秋乃別をきこえて
なきあるうと袖の露
乃やうくさしま
さわらく雲こそ
むすひつまをそへ
色やそりまぬん
こくたきあるすと
露乃玉をそくく
大戴礼曰露霑而為霜
神字月かせりおの
うこそそくくと
うくくもくく弄の
四月　花花義集

新古今和歌集巻第六

夏歌

千五百番歌合に初夏乃こゝろを
よめる　　左大臣宮大夫後鳥

たきこのうへと秋乃わすれの袖乃露
露こそむすとへ色やさわらん

天暦御時歌合に時かゝるはきといふを
かゝせる　　藤原定家朝臣

神字月かせりおの露乃ちる時す

續庫

[illegible]十二月孫を
[illegible]て仏のたまう
[illegible]を孫たちも往生
[illegible]言葉の将
孫よ猶河よりく入
[illegible]仏の
[illegible]世の孫たち成
仏[illegible]

名[illegible]川やちせの法
[illegible]川陸奥 藤原
[illegible]藤原
[illegible]

[illegible]こたちとあく扇うかあるき
[illegible]と　源重之

名[illegible]川やちせの陸もさいく
[illegible]やつたくちくせらん
後冷泉院乃御時うへの御こ
[illegible]大井川うすみて紅葉浮
[illegible]

永どいつる心をよみ侍りける　参議資房卿

菅原資宗朝臣

[illegible]よまくこそうたんと野分に[illegible]
[illegible]上の[illegible]
[illegible]
[illegible]

野列云々とこゝにきこゆるを
あるべき所無の所ふ
あるべし流れて流れ
いたりてなりとよめり

日くれはいかゝ人もとまりまさきちる
こゝの乃あるゝのをとをもうかりく

源山雲寄とこゝろ
源俊頼卿

日くれはいかゝ人もとまりまさきちる
こゝの乃あるゝのをとをもうかりく

玄音云源山雲寄とは
歌を書とる意歟
山中人もいかゝ人をいかゝ日暮く人も世と琴の音ばかりの
山中乃林あるゝ人はあるゝ人はあるゝのをとをも
聞ぬ山里は
源山乃風情をとひとる意歟
遺案 為家卿歌
とくとひさしくする意歟
琴ばかりの音ばかりく
日くれはいかゝ人もとまりまさきちる
上もれたるわさをゆくゝこゝをゆきもよきあるとしてこゝは琴
ばかりあらぬ所をさもれかゝるはひく姿をくゝ作るや

歌とこゝろ　藤原清輔卿

をのはりくをとする
谷の人風をて山家を
とはれも誰とか人なる
くて自然者とる物
ハをとゝ常くハ吹過を
本の琴ちる有まゝ
野列云々ハ琴をさ
ゝ吹過されり山雲
なのあれ閑寂を感
とくゝ風ハ吹てハ
ゝきの社をかゝをハ
とて琴のをとはよ
こゝろをの雅意歟
をのはりくをとする
本乃琴の音ばかりく
春日社奇合歌会とゝ
てをとる

前大僧正慈圓

本乃琴ちる有ハ
ゝ神のをを
ハのりくも
ゝ吹ゝくゝゆ
ゝ

古今遠通具

こゝをとはるをとれやまふ我神
とるまきあをとのいとをとをまて

藤原雅経

神よハたりの時なれ
ものゝあはれをもの知
るやうなりけるこゝ
うたをよく学び給へ
ちるらんさきのかつまれやま

七条院大納言　藤原実綱

雪ふかるゝハ紫ひと
雪ふかるゝハ走りこゝす
されども雪ふるさゝ
ふるの花をもて交るゝと
やふるの葛葉ひとつ
きるゝ風情限なき
ゆゑ　業平朝臣

信濃　日蓮祖師元仲女
法号後光明院下野

たれ人か神とかあらしの
やまれまのそゝりはゝくこゝ
風情あるゝ

そのゝとれたるのあれ雪ふかとうやさんようき雪の雪ふるゝと
されたる神かりあ　山ほの為年は第一に時分は第一に時分は第一に神の

ひゝゝゝゝ
山さゝの風さゝゝき
雲音云ふ知のゝゝ
深れてお遅きと

藤原秀能

そホ六義の内にて全体
の比喩と日ふきゆや
色乃まて山もあ不
四時吟之又岩秀孤松之
雲音云新述言語等之ゝ
乃ふ知ゝ為ゝ

祝部成茂　日蓮祖師元仲女
義舞羅

松の岩よおゝる風情深
ふ寂ゝ者ゝ姿ゝ為ゝ私
さゝのさゝのゝ為ゝ
のさゝひゝ林花ゝ乃
ゝゝゝゝ私のゝ

山さゝと乃風さゝきゝゝ
まの知ゝ千れゝく拾ゝ

為ゝ乃ゝ乃まて山ゝ乃ゝ
のゝる松さゝくゝねゝさゝゝ

五十首寄雪時

宮内ゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

野分に秋のうたをよめとよまれける　前内大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

木がらしの吹きて枯れ
ぬる野の風よりは
ちらぬる雲ぞなき
柴の戸は今のうけは
見しも聞くに時雨
れぬる雲ぞなき

やまぶんん

山家時雨とつてるこころを　荻原隆信卿

やまとぬれて時雨
やまぶくせるに松の下はゆ
ふ

寛平御時后宮の歌合に

よみ人しらず

神無月しぐれ降るなる山の
面は木の葉の紅ぬるいろかな

中務卿具平親王

木がらしの吹きて枯れ
ぬる野の風よりは
ちらぬる雲ぞなき
柴の戸は今のうけは
見しも聞くに時雨
れぬる雲ぞなき

中納言兼輔

しぐれ降る時雨すれども
ぬれぬ
しぐれ降る時雨すれども
ぬれぬ

十月ばかりに

能因法師

時雨降る山ぢの
ぬれぬ

百番歌合の内まつくし
れハ松のそしなりけりひ
ろてなをすゑの世心
中く常盤の名の内ハ社
乃松のかくハ深緑さ
るゝや雪ちるゝの色
みをなのさかりなれ
ハ歌ハ
ゆくゝとなんとなを
乃内も博も歌て
歌もゝ
ゝ

みをとなのさかりなれハ歌ハ
ゆくゝとなんとなを
乃内も博も歌て
歌もゝ

後白河院御歌

まつくしの内の紫乃庵り松ねゝく
ゝ

前大僧正慈圓

時雨と

ゝ

やよとなれ松ハ社のおりゝせハ
ゝ

人麿

ゝ

ゝ

ゝ

時のまもなく山にいでしかの月のかげをとりてやどしてしかりけるとかや

世の中をいとはしかりけるとかや

和泉式部

世の中をうきものとのみ思ひしに

野辺にかくれぬ人ぞ恋しき

世の中をうきものとのみ思ひしに

隠れぬ人ぞ恋しかりけり

百首歌

二条院讃岐

思ひかねうきものとのみ思ひしに

袖にぬれぬ人ぞ恋しき

新古今

秋上

秋の夕べ

二条院讃岐

秋の夕べ

あはれ

秋の夕べ

あはれ

時雨の雨

時雨の雨

時雨の雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言葉同じ乃意氣をよく[illegible]
[illegible]

中務卿具平親王

[illegible]

冥秋門院御歌

[illegible]

春日社奇合の曉月とかけるを
右馬權頭通具

[illegible]

[illegible]

和哥所[illegible]
六首哥[illegible]

[illegible]

藤原家隆朝臣

[illegible]

源泰光

千五百番歌合に

源具親

今よりは木の葉隠れも晴れぬべし
月を待ちつる山の端の月

新古今集

五十首歌奉りし時

家基法師

山の端の月を
月の出の
月の出の

新古今集の義
云々

月の出を待つ心を

良暹法師

今はとて
月の出の

前拾遺

月の出の
月の出の

前拾遺

月の出の
月の出の

前拾遺

月の出の

思の図を見ず袖のおしをしを
みねやうに白雲のとを
なるべきをのうるめる
うゝよりけり

大僧正慈円

みねやうに白雲のとを
なるべきをのうるめる
うゝよりけり

西行法師

とゝやま麓の里のみちれは
柿うゝ月を見る山邦

百首歌中時

若原雅経

秋の夕べをうゝい果てやくゝの
月のかつゝうゝまゝのゝ色

今八上馬乃月家れ
柱を次本柱つ清を
風をゝみまの柱時り
みの行ゝよ柱家遠
て月の星をきを風き
しみ本の紅時ゆゝと
をゝる乃ゝき雲や
我門乃明里の月
時のゝと床のゝて
をゝとゝゝ月の
明日をゝ心ゝ

武子四郎

柱をゝと
風をゝみまの柱ゝ清を
のゝるゝ家をゝき遠乃月ゝ

殿富門院大夫

我門乃明里の月のかもに月と時乃
とゝゝのゝゝまゝのゝ月

若原清輔朝臣

多柱乃森の柱家
野列玉山家を
物四とゝを柱紅

多かを乃森れゝ柱家の紅乃上を
おゝゝる月乃ゝけのさ和けさ

寛上月遠さ和けさとゝひつめゝゝゝれと錦ある家ゝ心家

水晶を猶猶乃壺の上よりくもりなくさやけき月
入るとは月をハ入るとすれ共なをなを猶猶乃壺
の上より移さるるおもしろく新のうつりやす
い移りかるさま　雲霧既陳本無盡脱人彩森地仰見明月　赤地
霧晴

千五百番の哥合より

大宮大夫大文後嵯峨

さしわひくさむる花よりけふ入れそ
雲のうきはの月もなくなる
入れハ雲はきはれる
明の松のうつりさうか
るさま　体情和歌

右清門詩遍具

雲むらとふ袖乃ひかりきうらけて
雲晴
ねぬ夜はれ月乃新うさむけき　やけきィ

五十首哥より

又月もさやかにてなる
ることをみてねぬるの心を
よめり　行業と後切
新とめ　雲の若りと
俤ぢの雲は映しる
月と詠めて秋乃歌
若り月乃入れハ秋乃
雲は新とめ若りて
月も出かてとの雲
を雲の袖をひきて
出かてるとよ乃
かくしき乃袖をや雲
我袖をもとよめる我よりくよめる
年ゝ我ゝ月乃雲れ乃ハ袖を出てん搗姫ハ入るしきの袖を雲
かさねんとてもとく雲りかをねくりやこよひとんらの月

藤原雅経

新とめ　雲乃やうりをなをひかく
雲乃　行業とふあさちふ乃月

雲とふるすをよみ侍る

法皇　音清　文治の別当　成清　吉野

月乃うよりくる宮法乃ひめ
かくしき乃袖をや雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

崇徳院御時百首奇中秋

前大僧正慈圓

秋の夜の月の光のあらそひに
きりぎすこそは鳴きわたるなり
そし人丸の秋は蟋蟀
別きぬれいとうて若こすは鳴やわるん
毎のかふの
ちやまもちのうさやく雲をを
むと作る風情なり

紫式部

雲のいろもこれはあはれとてこそ
雲のいろもこれは向きとよろり
秋の夕ぐれを
雲のいろもこれは向きとよろり
秋の夕ぐれを

百首奇中小

前大僧正慈圓

雲さ移る山田の
自潜の武松の山田
刈果て雲さ移る山田
乃雲の粘こ雲乃
一村残れる林を
やうよ紅ひ
粘を粘とせるる
雲乃うよこてら西
野別云こてらはる
とよ田を乃とをくるり
乃上よ
雲をくるとを
そし雲結而成雲
とこうこ心りし

雲さ移る山田乃
刈るひとあるこ
雲乃うこ
下紅の雲とむすふ
雲さ移る山田乃
刈るひとあるこ
雲乃うこ
下紅の雲とむすふ

前大僧正慈圓

雲さ移る山田乃
刈るひとあるこ
雲乃うこ
下紅の雲とむすふ

曽禰好忠

中納言家持

かさてきの乃わすれ草の花のもとに雪の
降るきをたれとよそうつけよとなる
う乃なのことも菊のわたせる估
そもそも意今之中
なるはなのそよ　延喜十年
白く玉わすれるさま
よそよりは下葉なりもそなと
天上の四ちくに鳥鵲の
橋をわたすとかのうく
てとよみ出せるを家集に
頭つ中ゆりもさいしく久世の月乃都の内のくそも心葉の氣をとり
天上をとひやりさま心葉特の寄より
もしく宗も時くるる東雲八天よ陽くさ
心高を所ちくに國住つきのはつ
当れはくれゆく　当てのの時花八橋る比菊菊のく雪は白るさま

菊宴　菊を賞して
紀宴はるるる尚侍
はるりかはりより
菊を賞をまるる比
きくの花しるわて八
初雪乃
ちはかりてそまま玉
しらの中に雪ふる
つるふれ白れ白れ
新きくよ今八と菊の
是則集八菊の乃
はるしるもと和ちて
今りく菊のとはり新
きくよ八の新も多の
うりかりしと

延喜十四年尚侍菅原淳子よ菊宴給
くせるる時　中納言兼輔
きくの花しるわて八
初雪乃
ちはかりてそまま玉
しらの中に雪ふる
つるふれ白れ白れ
新きくよ今八と菊の
是則集八菊の乃
はるしるもと和ちて
今りく菊のとはり新
きくよ八の新も多の
うりかりしと

月

かすみ沖時大井川　延長八年
はるかすみ估る
坂上是則
新きくよりはるとと菊のうつろふと
波乃ちとるも雪やちらん
新きくと　和泉式部
のくれはるるるるのかりひ雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人まれなる山居の世界
乃時をうつす山交
とせんの心をつくす
山まつの乃花咲ぬ
春の雲とやいふ
まさふ動をまつり
況して三つの行とえ
えねと知人の三界
てらふ事うれの行
ものを除る心や
しらす山さるの花
宮殿の文殊よ往
昔とをふ問し物
之深をうて洞しこうとハ
をきふハ物るゆ人間もとうう

百首并序

むつ山ふさもれねさめ深さく
まつ山もこうる袖のうへ
百首首并序

しらぬる山乃さつも当行て
まさ乃さつうるい さ乃
守覺法親王

秋しらぬれぬ山のさつ
を無水さく山の事も
陸奥

かけこうの乃ふる
岩ふふしもせしふ流
滝水凍明流不得と
白雪天の秋し且ふり
且ふけく流出流
す岩ふふ嶮の川当
のむせふ高の世
きしかの岩ふよ中ふ乃ふの
ふり山やとのるうとこうの
まつ山と袖も流ほしぬて
むすこねふをふ山ふ
こうの

かけこうの乃ふる
岩ふふむせふ乃ふ

[illegible]

五十首寄せ書き一帖

[illegible]

百首寄せ書き一帖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四野田、玉川、海ゝ行きて、西に往来夕風よみ侍りける

とゝのまに〳〵ひゞせる音にそ上見れはさゝ一枝山桜を望む面白

うも感ぜらるゝ骨髄（コツヅイ）にとゝまるゝ心地なんする物哉と為申さるゝ

先達申されし

ゝゝゝ

[illegible]

家務四天王院乃陰にあるこのうち

かきくるる雨　源秀能

風のけいようにあるこの乃かこひ

おもひたえぬ恋のうきちりかる

おもひ　橋中納言通光

[illegible]と乃日も久しきあるこの浦

[illegible]る袖のちりなくあるを

文治六年女御入内屏風

風さゆるうきまの月

冨士信実

風さゆるうきまの月

冨士信実

波乃立

[illegible]

波乃心次第なる風

なりの

たりのやちくさ

ゆくえもしらぬ秋の夕

八雲のあるかぎり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日をつく雷氣の
故に炭を燒て空
乃用とすると雷け
れはさきとも乃燒ハ
雖山ゆるれと大原の
里ハ花さかりとて
あたらしくいとねを三ツ
玄旨云なりけり
自然に我はこころ
こそねをのもさらも
無にとはねとも
ぬるゝ小子等の書ける
さはり墨染人をとゝ
いとぬる間と結体と
かりてハ身ゆゝ神と

西行法師

なのたゝ人ゝ世を去て人やすと
やすらふかなとう年乃くれぬる

後鳥羽院御乃書ける

上西門院兵衛

かりそくハ急よそ小鳥と去りなり
それゆくとをなるさとをんん

皇大后宮大夫俊成女

へるゝゆく世乃ちも新りきて
雷と乃めるとて乃くれかな

ゆく年とをうるゆく人とをうハ高ゆるゆるよりて年の高り
ていハ新りをを乃ゆるゆ物とハ知のゆ新ゆく年ををうて大ハ行るゆ
へるゆく世をの面新をを乃書れ雷うゆる比が年とゆとそれの我世のゆ
をひてけくよゆゆ急年月ゆゆ世のゆ間の年乃仲も雷の時
くゆゆをに吉年ゆる年の業ゆ叫の年乃仲も雷の時
夢ゆ風ゆ人ゆゆも合めゆる年ゆゆ

ゆゆゆき年やゆ

雷音云名れハ年
ゆゆゆとゆハゆとゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

雪乃けさ後徳大寺左大臣のもと
よりつかはす　皇太后宮大夫俊成

ゆきとのみ見るやふるとはなれたる
まつ折らるるさくらかな
ひとしれぬ心ぞ雪のあさ花乃雪とみる
ゆきとのみ見るやふるとはなれたる
まつ折らるるさくらかな

後徳大寺左大臣

雪ときえてこそ心あるものなれ
いかなる人か雪をあはれと
ゆきとのみ見るやふるとはなれたる
まつ折らるるさくらかな

雪かきわけてこそ
雪ときえてこそ心あるものなれ
いかなる人か雪をあはれと

お大納言公任

ゆきとのみ見るやふるとはなれたる
まつ折らるるさくらかな

恋見集年ふれば
の白山きよくかがやく

雪やはらはん
後さめぬるか

くもりなき雪つもりて
そらの心ぞ白山の
年ふる雪と積もれる
心ぞ雪とぬる衣のさゆ
ふれば白山の雪
山ぞ人とぞ

あけやらぬねねさめの
曉風ふく中ぞ
明やらぬねねさめの
ゆきとぬる山ぞ
ゆきとぬる山ぞ
ゆきとぬる山ぞ

あけやらぬねねさめの床よりきこゆ也
まきの竹の雪れ出てこれ
うへ乃なのことも曉に山雪を
ゆる雪をけさ見まつりけるよ

言倉院御所

ゆきとぬる山ぞやりよ見する白雪を
明やらぬねねさめけるとりの声
ゆきとぬる山ぞ
あけぬるとけるとりの声
ゆきとぬる山ぞ
あけぬるとけるとりの声
ゆきとぬる山ぞ
あけぬると

[illegible]の[illegible]
[illegible]の晩の雪を
[illegible]

[illegible]
[illegible]を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

おなじ家のうちにて

冬歌よみける世にあたりて伏見里の

雪を　　藤原有家朝臣

夢のかよひぢ人もとはねとれ竹の

ふしみの里の雪のあさぼらけ

百首歌よみける世にあたりて

　　入道前関白太政大臣

ふる雪のうへのみかきはくれぬれど

さひしくもなほ残る月かな

[illegible]

[illegible]

　　赤人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪のゆやゆかりぬるとは
山家要集第三内裏
清涼殿乃年中行事
乃内に山里ゆきの人の
雪のゆかりをたづねて
ゆきかり給乃ゆゑ
寄乃心は山里の雪のゆ
ゆゑやゆかん我もこ
ふおもひの年ゆゑ
ゆかるゆゑをたづねみる
ゆゑ山里人ゆ感ぜし
雪ゆれいゆゆの表榊
天のゆゆ山の表榊
のゆ日本紀ゆゆ表榊
乃雪ゆ月の映しる

雪時寄せられと作り給へけ
ば　紀貫之

雪のゆやゆかりぬるとはなほやまちと
我をおもひおくらうゆたれる

守覚法親王百十首寄せる世作り
ゆゆ　白太原宣大文後成

雪ゆまいゆゆねのまちのきうつられく
月ゆうつりけるゆまれゆゆやま
ゆ　小侍従

ゆきゆゆゆゆゆる雪乃ゆ里を
ゆゆのけるとゆ
ゆるゆゆ
ゆきゆゆゆゆ山雪ゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆ
ゆゆ

[illegible]

雪乃所ゝ大原山ゝ[illegible]

寂然法師 大原三寂の一人

[illegible]

[illegible]

百首歌中に　太上天皇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千五百番寄合 六番 恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日をしらく雪氣なる
故に炭を燒て暖室
乃用とすると雪け
れはさるとも烟は
雖山掛なれと大原の
里は花さいしとも
なほ消うくはなを雪
雲旨云なのけうと
自然に我はこそ
こそぬるなるさらも
春にさいぬるもを
ぬるは雪の春ぬる
雪は墨染人をこと
いそぬる向うと結体心
かりては勇ゆる神と

西行法師

なをのはるゝ山を去て人やるも
やすらふかとう年乃くれぬる

年乃暮まよ年はるる

上西門院兵衛

かゝるとは思ふ小松と去りなう
れゆくとをなよ去てうん

皇太后宮大夫俊成女

へるゆく世乃なを新りさて
雪とみのはるとて乃くれかな

ゆく年と去うるとゆく人と去こは春ゆるるよりて年の暮り
てはなれ勇ゆをは乃春ゆる物とはゆく年を去てふはるるうとと
へるゆく世この面新なる乃暮れ雪うるゆる比が年ちとまその我世のるゆと
去りてけくゆるる心年月一そゆく世のゆる句の年乃休も雪の時
くゆるやに古年ゆる年の暮ゆ叩のゆ休りゆて崇光と法ゆき
年の風ゆ人ゆるゆも含めゆる年ゆゆ

大納言隆季

雪音云なれは年
ゆゆとはゆとゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ひまゆゆゆゆゆは光
乃物ゆ安きゆと

墨繁史記九十魏翁傳
日人生一世間如白駒過隙耳注白駒謂日

ゆゆゆゆゆゆゆゆ年ゆゆゆとめゆゆん
ひまゆゆゆゆゆゆゆゆちとまゆゆゆく

俊成卿家歌十首奇よ年作り
ゆゆゆ家歌のゆゆを

俊恵法師

影とめてんハ春来
ぬ雪のうちよりはな
いて新玉年の我身
数ふい心を駒小
ゆかせてまつも猶
ちかきはしこそ
野きはハあ上の迷
はるゝ雪ハ
ぬとしみる年も
うの雪の繰小
斗をゝひ知ゆ
年ゝ
なひやれ八千の心
むり小春
宮川舞会の
ゝ言言ゝ

百首寄せ月 小侍従

いやもゝ八十乃年のくれをれ
ヤソチ
なりいやもゝ八十乃年のくれをれ
いうくれうくれうくれのくれをれ
おもひ

新古今 西行法師 俗名盛清

むりしいやゝ小春ゝ
ゝ

入て世ゝ
なひやれ八千の心
むり小春
宮川舞会の
ゝ言言ゝ

定家ゝ判詞ゝ
ゝ言言ゝ

ゝ世ゝハ
月のゝ
れ海ゝ
ゝ言言ゝ
ゝ言言ゝ

ゝ朝ゝ
ゝ言言ゝ

ゝ言言ゝ

ゝ言言ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寂蓮法師

[illegible]

千五百番歌合に

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]日本紀等を勅撰ま仁徳天皇の
[illegible]二月小槻[illegible]の[illegible]て[illegible]を[illegible]民[illegible]れ[illegible]
[illegible]れ[illegible]今[illegible]の[illegible]と[illegible]民[illegible]
内裏乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

子日とよめる　　菅原清公（従五位下式部少輔）

わかのひろく[illegible]ものの野[illegible]

ひよ[illegible]

[illegible]

紀貫之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後朱雀院皇女二宮ノ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

山川乃さくの下乃
朗詠 谷水洗花汲
下流而得上寿者三
十餘家く南陽乃觀
勝乃まに谷乃菊乃下
ゆきのて上寿を
ゆくる事は攝政殿
ををせく点不老せ
さゆく点にて三悲
いのり行く秋乃月の
そそ墨本貫之集三
天慶三年間七月東
門宴屏風の詞乃
中に河出九月菊
乃ひ いのり行く秋乃

菅原長風

山川乃きくの下乃ながれてのちもいつかれを
おもふ人乃ををせくらん

延喜御時屏風乃うた

貫之

いのちなく秋乃月乃きくの花
伊勢

文治六年女御入内屏風歌

皇太后宮大夫俊成

山人乃ゆる袖にあふまきく乃露

月に八九月八寄之と
て秋乃月に所乃者
いきの物ふいのり
行く秋乃月を添て
千ま人の物乃神白木
野引之祝言の詞乃
歌也本寄 ぬれぬく
かする山乃菊乃露
乃ふに河乃ちをせを舟いつ
おすまに八ちりくんとの詞乃中間差にて也れて
かすの月とちとし 寄元浦集乃愚本にて伝すと云る彼屏風の
終常盤末せくる寄のよ元乃しをいくるさ乃うとしくしく
十月乃物乃ひとの元乃ちをさくさくさくさくさくさくさくさく
て乃寄をくく

元浦

貞信公家屏風乃

うちちをみもちをくくぬ

かする月とちもちをくくぬ
よろ河代をきくれ

山ゝせいかけとゝかれて去る院乃
心ゝ[illegible]ゝ不愛乃出
振乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
社壇[illegible]ゝ入給ゝ
大二条関白中将ゝ給ゝ
教通公ゝ堂関白五男
寛仁五年正月十八日任中
将ニ上東門院乃院先
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
院一条院乃生れ給ゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]
[illegible]年の[illegible]
[illegible]
天照大神[illegible]
[illegible]
[illegible]

後冷泉院[illegible]号
天喜四年后宮乃哥合に 祝乃心を
よみ侍る　　前大納言隆国

[illegible]乃[illegible]おひ[illegible]松乃枝[illegible]
[illegible]

堀川院[illegible]号
寛治八年関白前太政大臣家陽
院哥合に祝ひ乃心を
　　藤資王母

[illegible]松乃尾山の[illegible]
[illegible]
後冷泉院おさら[illegible]

大[illegible]元年[illegible]都[illegible]
て松尾乃社と[illegible]
大山咋神[illegible]
[illegible]松乃松　[illegible]松の[illegible]
[illegible]拾遺の[illegible]
[illegible]松の松と[illegible]
[illegible]
[illegible]民[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]る時[illegible]松乃松を人の[illegible]
[illegible]
大[illegible]三位

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

白河院[illegible]号
永保四年内裏子日り

子日とる千きの内
行幸の内とハ嵯峨の
幸ゝちよハ和の和うす
す山ハ堀の内ハ北ハ
うゝはれと

大納言經信

子日とる千きの内
ちよとをいはれしのとやいはん

ねのひとる野ゝの小松をうゝ植て
年の内ハ結ぶゝ春
の浪ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

おなじ御時南殿乃桜さかりに

[illegible]

冬河内侍[illegible]

[illegible]

武子内親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日本のくに安海の
やまもふかいおもあり
ろんを重ねよ
まれわの山海根を固
めて神代より遠嘗
たのるも此君の風
こゝろまもるなり
いにしへ

ひろかくに世にあらん
祝乃心をとゝ伝る
皇太原宮文信藏

君の代にいる世ともに天乃戸や
出る月日乃かきりなりけれ

ねれてゐるを
野列をれ
乃ちとい
ぬまてくわと
こゝまを
君の代を
あるべき
いとをし

ひかりの太神宮乃陰
乃ちとい我八へぬん 愚案
山ちゝ女を我八へぬん
神明の威光幾世へぬんと
毎ゝ乃ゝ月日ともにかぎり
天乃戸
神代をれいる世ともさゝ
自然と戸乃開るゝ

わゝ乃をとまとゝ
我乃をとい和歌之
乃風俗をれい和歌を
読ゝ乃古今序より樂
吾道之再昌と云ふ
を男もすゝ
任表明神い和歌とも
らせゝ乃ゝい我君を
高野院を和歌と称ハ
せゝ乃ゝ歳ゝれい定め
て此君をゝ乃ゝ
ゝゝ乃ゝハ松の歌を
少ゝて君をゝ
ゝゝ乃ゝ

千ゝ百番歌合より
菅原宮家朝臣

わゝ乃をまとゝ
ゝゝ君をゝ
よゝひいゆきすゝ
八月十五夜和歌十番歌合より
秋夜月

寂蓮法師

ゝゝ乃ゝ
ゝゝ乃ゝ
ゝゝ乃ゝ
和歌
ゝゝ乃ゝ
ゝゝ乃ゝ
ゝゝ乃ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首寄よみ侍りける

後徳大寺左大臣

やまぢゆく涙の雨のはるさめを
かすりの代の
かすりとぞ聞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行相傳の一冊は書拾遺
集なるおく物語
とまきいるるまいの中山
去信中山うとくく帯
聖ふくる年を待松
の浦縁ちるとも
風俗舞　おく集物語
ありねさす名月光
去音云名月乃出る
乃赤られい花浮き法ぎ
昔をうく神楽乃時神人くに
高手繦とありよりて神事小用る事
ち冠乃高中まる
京合注明年命
とうもの年の稲を
とくもの年の

とるまいの中山とて
みとせとまいの中山
長和五年大嘗會悠紀方風俗舞
近江國相日郷　安雲浦歌
ありねさす名月乃里光ひけ
とうの行乃おさ〳〵ちる〳〵

ひけて　愚案日本紀ニ天細女命ノ蘿
神楽友
年中行事
二条大閤乃年中行事
九月あるとい舞の事

命乃冠乃ちる
愚案六百番舞合元亨乃五番歌服舞
寒ちるとよりて
すゝきをきいるきい
を席を常陸乃ちり
ちるをいひけく
山乃とハ一条殿関白
法神ちるとうの時
宇乃のうゝて顧を
ゆをとり神楽ふ
すきもくのあるの山
乃山人を人もこるる
山うゝぜよい法花経
ちるのをとの
寒の毛をするとや

細ハ六百番の舞合ちるの
舞合乃方陳云法の舞合
すゝきをきいるきい
後拾遺
永承元年大嘗會悠紀方屏風近江
屏風ノ歌書注
武部蒲資業
寛法二年大嘗會屏風
お中納言屏風
山ひとあゝやまゝせり
山をよめる
とやかるのを山乃むけそき
ちるをいみもをいうゝ

[illegible]と云ハ近江書
尾山よりいでゝ
精ハ八ヶ宮と申れい雲
是ハ[illegible]と云不[illegible]と
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ホハ近江ニ奏ヲ[illegible]ハ冊度或伊勢乃国乃郡乃名ト大臣出テ神祇
友ヲ[illegible]テトリヤク[illegible]テ[illegible]ヲ種ヲ用ユ仁安元年乃大嘗会乃悠
紀方乃国郡ハ近江ハ稲田あきいりくよりの稲田乃ハねをとりあけうう
ハ千ヒく王道向ヒ治代乃ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]

寿永元年　寿永

天皇乃年号ヲ
イ仁安ハ六条院乃
年号ヒ但兼光ヒ
ハ寿永乃年号ヒ
乃ヒ人乃ヒ[illegible]ヒ
おうヒ[illegible]ヒ
神代ヒ[illegible]ヒ
野列ヒ[illegible]ヒ

イ仁安
寿永元年大嘗会ヒ奏方編春
冊度国長田村ヒよめヒ
中納言兼光
権中納言兼光

神代ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]

乃きねの山の松風
それハ立れハ浦まを
こそり等閑を養ふ

六月　松井　権中納言資実　中納言家光子

ときこそあるまつ井乃あとをとむ
六月　松井
宵乃うをを立ぬ
志ひ〳〵くらもゆうゝ世ハ
て松井の水とよを
ゆうゝしく
ときハ立る松井の　常盤なるハ松井とりわけてのまつ乃　立ち
聞ふる乃ゆうゝ世乃新の乃ゆゝとゝ　乃ゆゝとゝ世乃新の乃ゆゝとゝ
乃ゆゝとゝ世乃新の乃ゆゝとゝ　乃ゆゝとゝ世乃新の乃ゆゝとゝ
りつゝ　納涼の思ふ〳〵　六月のゆうゝ　等の
作者八重垣ゆゝ建久慈円方とゝ世ゝ